

田んぼでは植えたばかりの苗が揺れています。

## Any Volunteer?

千葉市少年自然の家では、様々な「ボランティア」を募集しています。今回は私たちの考える「ボランティア」について事業副主任の植松基がお伝えします。



今ひとつピンとこない言葉の一つに「ボランティア」があります。広辞苑では冒頭に「みずから進んで社会事業などに無償で参加する人・活動」とあります。ほかにも、「公益性」「先駆性」「継続性」「無償性」云々といった難しい言葉がたくさんでてくるのです。

数年前、アメリカのキャンプ場で働いていた頃、野外で指導するカウンセラーが“Any Volunteer?”と小学生らに呼びかけている姿をたびたび見たことがあります。毎回誰かが名乗り出て、全員の手本になったり、カウンセラーの質問に答えたりします。そしてVolunteerを終えた子どもは、決まって「Good Job!」「Wonderful!」「Great!」と誉められ、嬉しそうに席に戻っていきます。



ここで興味深かったことは、Volunteerをする子

どもは、たとえ模範的な解答ができなくても、または指導者の期待するような行動をしなくても、自発的な発言や進んで引き受ける行動そのものが尊重され、評価されていたことです。日本語だと「やりたい人!」「できる人!」と言った方が最も近いイメージでしょうか。明らかに日本語の「ボランティア」とは意味が異なりますが、私にはこちらの方がしっくりくるのです。



千葉市少年自然の家でも、ボランティアを募っています。これは、当所を利用する子どもたちをはじめ、事業や施設の運営に関するものです。ここで私たちが求めるボランティアとは、まさに「やりたい人!」「できる人!」です。決して高い目標や専門的な技術がなくても構いません。むしろ、主旨や施設を十分に理解していただき、進んで関わって下さる方に来て頂きたいと考えています。

「Any Volunteer?」みなさまのご参加をスタッフ一同、心よりお待ちしております!

- 【たとえば、こんなボランティアを求めています】
- ・クラフトプログラムの指導・補助
  - ・ファミリーキャンプサポート
  - ・施設内掲示・飾りつけ
  - ・広報誌の発送作業
- そのほか、ボランティアに関することは裏面をご覧ください。

## 主催 プロジェクト アドベンチャー体験会

4月15日～16日、「プロジェクトアドベンチャー(以下PA)体験会」が開催されました。PAとは、信頼関係のきっかけを作る体験学習の新しい手法の一つです。当所でも、移動教室等で訪れる小学生にPAを指導しており、年々、その教育的効果への関心は高まっています。今回はPAトレーナー吉岡秀晃氏を招き、教員や青少年相談員ら15名が参加して、体験的に学びました。

以下は、体験会終了後に記入されたアンケートの抜粋です。参加者の率直な声を読んで頂き、PAの教育的価値をここで感じとって頂ければ幸いです。

■1泊2日では消化しきれないくらいのボリュームで、得たものは大きく、満足でした。(青少年相談員)



■考える・知る・発見する・失敗する場を提供することは、とても素晴らしいことであると感じた。(青少年教育施設職員)

■体験を通してPAの素晴らしさを再認識しました。(青少年相談員)

■PAのことが分かったような気がします。何を目的に何をしたいのか等、深く考える機会が持てたので良かったです。(少年スポーツ指導者)

■とても勉強になった。継続的に参加し、理解を深めていきたい。(青少年団体職員)

■初めてPAに接したが、PAの考え方がよく理解できたとともに、指導法について、具体的に説明があり、参考になった。(子供会主宰者)

■PAそのものの意味が分かっていなかった。PAが教員には浸透していないのだと反省した。(教員)

■初めてのPA体験でとても満足している。特に参加者として体験的に感じる事ができたのが良かった。(青少年相談員)

## 主催 ファミリーキャンプ 筍狩りと、筍で作る、筍ごはん。

今年度最初のファミリーキャンプは、4月22日～23日に長柄町の旬の食べ物である筍と竹をテーマにしたまさに竹尽くしのプログラムで開催し、10組のファミリー32名が参加されました。

1日目には、小刀などを使い思い思いに竹のおはしやお椀を作りました。2日目は、自然の家のすぐそば、六地藏地区の根本さんの竹山で筍狩りを行いました。筍の生え方、選び方、掘り方を根本さん自ら参加者の皆さんに大変わかりやすく説明していただいたおかげで、皆見事な筍を掘り出していました。



筍狩りの後、いよいよ筍ごはんとお味噌汁作りに取り掛かりました。地元産物の加工や伝統料理などに取り組む「長柄さくらの郷」の



スタッフの指導のもと、ファミリー毎に筍の皮をむき、刻んで下ごしらえをしました。皆の協力で、あっという間にできあがった筍ごはんとお味噌汁は、前日に作った竹のおはしとお椀でいただきました。新鮮で、しかも自分たちで採ってきた筍で作ったごはんは、とてもおいしくおかわり続出であっという間にぺろりと平らげてしまいました。

また、今回は新たな試みとして自然の家のボランティアによる企画でミニコンサート、ゲームや寸劇を織り交ぜた「交流会」が初日の夜に行われ、楽しいひとときを過ごしました。

今回のファミリーキャンプは、地元長柄町の自然と人の協力によって実施することができました。来年もまた、長柄の季節や自然を感じる体験ができればと思います。